北海商科大学 学報

Vol. 02

2007.4.1

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE MAGAZINE

北海商科大学歌

虹のアーチ

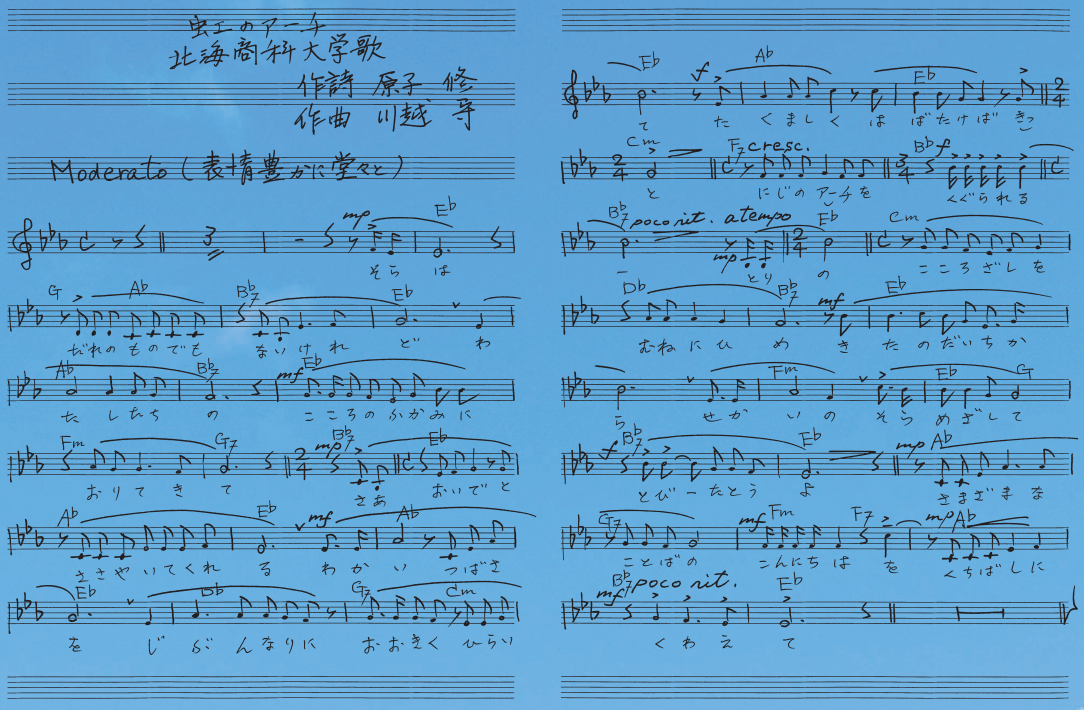
作詩 原子 修
作曲 川越 守

空は　誰のものでもないけれど
わたし達の心の深みに降りてきて
〝さあ　おいで〟と　囁(ささや)いてくれる

若いつばさを
自分なりに大きくひらいて
たくましく羽搏(はばた)けば
きっと
虹のアーチをくぐられる

鳥の志を胸に秘め
北の大地から
世界の空めざして飛びたとうよ

――さまざまな言葉の〝こんにちは〟を
嘴(くちばし)にくわえて・・・



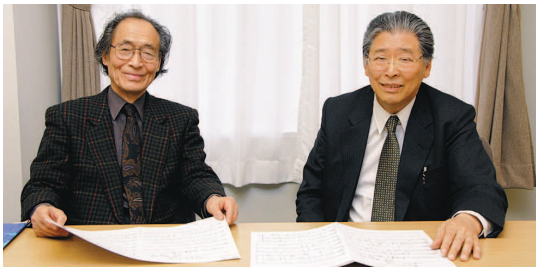
キャンパスニュース

北海商科大学学歌制定

いつでも気軽に口ずさんでほしい。この歌は、新しい学歌の姿です。

学歌「虹のアーチ」に込めた想い
作詞者・作曲者に聞く

2007年3月。原子修さんの詩と川越守さんの曲による
北海商科大学の新しい学歌「虹のアーチ」ができました。
北海道芸術界の重鎮として、多くの歌を手がけてきたお二人は、
この歌を“新しいタイプの学歌”とおっしゃいます。
新たな学歌に込めた作者の想いと、
誕生の舞台裏をうかがいました。



作詩者　原子　修
（はらこ　おさむ）
昭和7年、函館市出身。北海道学芸大学函館校卒。詩人。北海道詩人賞（昭和43年）、日本詩人クラブ賞（平成7年）、北海道文化賞（平成10年）受賞。主な詩集に「鳥影」（昭和42年）、「未来からの銃声」（平成6年）、「交響樹」（平成12年）など。詩劇活動に取り組み、国内はもとよりカナダ、ニューヨークでも公演を行う。日本現代詩人会。日本文芸家協会。札幌大学名誉教授。

作曲者　川越　守
（かわごえ　まもる）
昭和7年。札幌市出身。北海道大学教育学部卒。北海道学芸大学講師、北海道文教大学短期大学部教授などを歴任。作曲家。チェロ奏者。北海道芸術新賞（昭和49年）。北海道文化奨励賞（昭和61年）。北大在学中より北大交響楽団の再建に尽くし、爾来、現在まで同楽団を指揮。昭和55年、北海道交響楽団を設立。主な作品に「北海の幻想」、交響詩「サッポロ」などがある。

■川越：北海学園北見大学の学歌をつくった縁で、昨年12月に北海商科大学の学歌の相談を受けました。北見大学の学歌をアレンジするという案もあったんですが、私は新しくつくったらどうですかと、提案したんです。そして作詩者として原子さんを紹介しました。

●原子：川越さんと私は今までいろんな歌を作ってきた、以心伝心の間柄です。そんな川越さんの紹介でしたから、二つ返事で引き受けました。まず資料を読んで、北海商科大学の教育理念に共感しました。日本人からアジア人に、アジア人から国際人になろうという理念から、すぐに「空」のイメージが浮かんだ。世界に飛びたつ若者に「鳥」のイメージが浮かんだ。そして、学生に実際に会い、ふれあってみたいと思いました。そのとき、同じイメージを共有したくて、川越さんを誘ったんでしたよね。

■川越：1月のはじめでしたね。一緒に商科大学を訪れたのは。

●原子：そうでした。北海商科大学の学生に声をかけ、ふれあってみると、実にさわやかな青年たちだった。こうしたふれあいの中から、一気に言葉があふれてきたんです。「空」と「鳥」に加え「虹」という言葉が浮かび、「虹のアーチ」という歌詞ができた。言葉が実になめらかに浮かんでいったので、勢いを活かすため、1番、2番という分け方はやめました。学歌然とした堅苦しいものではなく、誰でも口ずさめるような、すがすがしい歌。これは学歌の新しいかたちだと思いました。そして1月いっぱい推敲に時間をかけて、川越さんに渡しました。

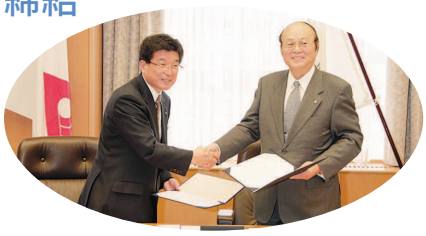
■川越：詩をいただいて、これは原子さんの新しい世界だな、と思いました。「空」「鳥」そして「虹」という明るさ。そして「心の深みに降りてきて」という言葉の深み。今までの原子さんにはない世界です。そして、いつでも、どこでも気軽に口ずさんでほしい、そんな原子さんの意図がすぐに伝わりましたよ。それで曲は、音域を広げずに、学歌というよりもフォークソングのように、誰にでも歌いやすいものをめざしたんです。

●原子：結果的として今までになかった新しいタイプの学歌ができました。学歌というと地域を詩の中に盛り込むものですが、グローバルと地域の融合をめざす北海商科大学ならば、地域性は「北の大地」という言葉で十分です。

■川越：ドラムを入れてジャズに編曲してもいい。学生さんには、自分たちなりに工夫をして、この歌を育ててほしいですね。

●原子：志をもって何かをなそうとするとき、自然にこの歌を口ずさんでくれたらいいですね。

栗山町と北海学園が「地域総合交流協定」を締結



2007年2月19日、栗山町椿原紀昭町長と学校法人北海学園森本正夫理事長が出席し、栗山町と北海学園との間で連携を結ぶ「地域総合交流協定」が交わされました。

この提携では当面本学が中心となり、地方自治体の観光産業や農業における展望や戦略の研究の場、実践教育におけるフィールドなどの面で町の協力を受けます。一方、研究の成果は、新しいまちづくりのための専門的な知識やノウハウとして町に提供されます。また、町の人材育成や、学生による町の魅力の再発見と提案なども見込まれています。当面は事業交流を通して、地域資源を基盤とした調査やプロジェクト研究などを通して相互の協力関係を深めていく予定です。

第1回北海商科祭開催
テーマは「アジアの時代—アジアを知ろう!」

2006年9月30日、「第1回北海商科祭」が開催されました。テーマは『アジアの時代ーアジアを知ろう!』。各サークルの代表者たちが中心となった北海商科祭実行委員会が大学祭の企画・運営を担いました。

当日は、あいにくの雨交じりの曇り空。それでも、校舎前面には各サークルによる焼きそば、綿あめなどの模擬店が並び、地域の方や北海学園大学の学生、同時開催されたオープンキャンパスに参加した高校生など多数の来場者が、会場を訪れました。また、海外留学を紹介するビデオ上映、上海出身の陶恵栄氏による健康講座など、『アジア』に関わる企画・展示で北海商科大学らしさをアピールしました。

実行委員長の村上護君(2年)は「準備は寝る間もないくらい大変でしたが、開催にこぎつけられてよかった。本学の特色を知ってもらうことに重点を置きました。来年は、異文化交流イベントなど参加型プログラムをもっと増やしていきたいです」と次年度の開催に意欲を見せています。

第1回体育祭開催
学生による伝統の創出

2006年10月7日、豊平体育館で「第1回北海商科大学体育祭」が開催されました。『開学間もない本学に、学生が楽しめる行事、交流の機会を学生の手で創出しよう』という意気込みから、学生有志による体育祭実行委員会が企画・運営を行いました。バスケットボール、フットサル、バレーボールと全員参加のリレーの4種目に80名ほどの学生が5チームに分かれて参加。総合優勝を争いました。

第1回開催だけあって計画や準備から思わぬアクシデントの連続。それでも、多くの学生や教職員の協力を受けて無事成功にこぎ着けました。

実行委員長横山巧(1年)君の話。

「参加者には楽しんでもらえたようだし、先生にも成功だと言ってもらえました。次回は新入生の入学で全学生数が増えるので、今回の反省点を踏まえながら、規模を大きくしていきたい。海外留学プログラムも考慮して、前後期に1回ずつきたえーる(北海道立総合体育センター)で開催することが目標です。自分たちが卒業したあとも商科大学の恒例行事として残るように頑張ります」

試合はもちろん一致団結、優勝をかけて競い合いました

2007年
北海商科大学入学試験行われる

2007年度、本学入試には、150人の募集定員に対して、427人の志願がありました。倍率にして2.8倍。一般入試だけに限ると3.8倍になります。北海商科大学としての最初の入試であった昨年に比べると、志願者が7.6パーセント(30人)の増加となりました。北海商科大学として開学して2年目、確実に北海商科の名前は広まっているようです。

選抜区分	学科	募集定員	2006		2007	
			志願数	志願倍率	志願数	志願倍率
一般入試	商学科	40	172	4.3	187	4.7
	観光産業学科	20	55	2.8	43	2.2
	小計	60	227	3.8	230	3.8
センター利用入試	商学科	10	83	8.3	103	10.3
	観光産業学科	5	44	8.8	50	10.0
	小計	15	127	8.5	153	10.2
指定校	商学科	30	15	0.5	21	0.7
	観光産業学科	15	15	1.0	12	0.8
併設校	商学科	20	10	0.5	9	0.5
	観光産業学科	10	3	0.3	2	0.2
合計	商学科	100	280	2.8	320	3.2
	観光産業学科	50	117	2.3	107	2.1
	合計	150	397	2.6	427	2.8

PHOTO 2007
英会話上達中

毎週月水曜の昼休み、英会話の上達を目指す学生がグラハム・ハード先生を囲んで行っている英会話サロンの様子。ニュースやスポーツ、世間話などを交え、アットホームな雰囲気のなか英会話を学んでいます。

特集

中国、韓国、カナダへ 虹のアーチをかけた初の海外留学

異文化コミュニケーションを目的として行われる本学の海外語学留学プログラム。
中国の山東省煙台大学13名、山東大学威海分校15名、韓国の大田大学校9名、
計37名の第1期生が留学生活を終え、貴重な経験を手に帰国しました。
また、1986年から学校法人北海学園との交換留学事業が続くカナダのレスブリッジ大学で、
5名がおよそ4週間の留学を経験しました。

中国語をマスターし『多広大』の舞台へ

中国語および国際交流担当　蘇林

『多・広・大』という日本人なら誰でもわかる漢字は、点を取り除き『多広大』とすると、中国語で『どれほど広大になるか』という意味になります。私の故郷である中国の内モンゴルには『你的心有多広大,你的天地就有多広大』という言葉があります。世界で最も人口が多く最も大きな市場をもつ中国語をマスターすれば、将来活躍する舞台はどれほど広がることでしょう。

中国経済の急成長に伴い中国語学習者が世界中で急増、HSK（中国語を母語としない学習者向けの中国政府唯一の公認中国語能力試験）受験者は年平均45％の高い伸び率を示し、2005年7月までに世界での累計受験者数は100万人を突破しました。

北海商科大学はこうした世界の流れに対応し、1年次に集中的な外国語講座を実施しています。中国語を履修すると、前期は4月と5月に週9時間、6月と7月に週15時間の講義があり、後期は中国の煙台大学、もしくは山東大学威海分校に留学し、中国語などを学びます。昨年度留学したみなさんにとって、中国語の上達はもちろん、中国文化を身をもって経験したことにより、知識、見聞が広がったことは貴重な財産になったでしょう。後期に留学しなかった履修者は、前期に続き週9時間講義を受け、時事中国語の日本語訳ができるほどになりました。また、課外活動として中国語サークルで勉強している学生もいます。

彼らの足元にひそやかにではありますが将来に通じる明るい道が開けてきており、彼らが将来、『多広大』の舞台で活躍することを楽しみにしています。

韓国での出会いで得た生きるチカラ

韓国語および国際交流担当　水野俊平

2月10日、無事6ヶ月の韓国留学を終えて、受け入れ先の大田大学校から学生諸君が帰国しました。1年生を6ヶ月も海外留学に送り出すというのは、破格の試みです。指導・引率教員として心配し、親元を離れたことのない学生が寄宿舎での集団生活に耐えられるかが一番の気がかりでした。幸い、大きな問題も起こらず1月末には授業・大学行事を含め、現地での学事日程をすべて終了することができました。

留学が終わりに近づいた今年1月大田大学校を訪問し、学生諸君が6ヶ月間、遅刻、欠席なしの誠実一途な勉学態度であったこと、明朗溌剌とした留学生活を送ったことを大学側から聞き、大いに安心しました。そればかりではなく留学生対抗料理大会や各種スポーツ大会ではいずれも優勝するなど、大いに校名を高め、これも教員としてひそかに誇りに思っています。

また、韓国で留学生諸君と会う機会があり、日本を出発したときより一回りも二回りも成長していることを実感できました（本人たちは自覚しているかどうかわかりませんが）。語学の上達という当初の目的以外にも、韓国の人々との出会いを通して、生きるチカラを得たものと信じます。

今回の韓国留学は初めての試みでしたが、まずまずの成功を収めたことにより、後輩たちへ韓国留学の道をひらく大きな一歩となりました。学生諸君の留学を支えてくださった大田大学校とご父兄のみなさまに心より感謝いたします。

大きな一歩、確かな手応え・留学生は語る

中国・煙台大学

肌で感じた中国の歴史と今

栗栖　健（1年）

写真中央が栗栖くん

私にとって中国留学で印象深かったのは北京と青島へ旅行したことです。

最初の北京旅行の際、私たちはあまり中国語が話せず、煙台大学の学生さんに、交通手段やホテルの手配など、たくさん助けてもらいました。北京で訪れた万里の長城は、2400㎞も続く石の壁が悠久の歴史を感じさせ、中国の代表的な大通りの王府井では、電飾で彩られたまちの美しさと売られている商品の質の高さに驚き、生活水準の向上を目の当たりしました。

二度目の旅行となる青島行きの際には、私たちの語学力も向上し、自分たちの力で旅行ができました。青島は有名な観光地で、整備された建物や道路などから近代的な印象を受けました。

「百聞は一見にしかず」、留学を通して《中国の歴史と文化》、そして経済発展や生活の様子など《中国の今》を肌で感じることができました。

中国・山東大学威海分校

アジア人として共に手をつなぐ

木原雄哉（1年）

現地の学生と、写真右が木原くん

私は留学する前まで、「日本人は中国人にどう思われているのだろう」と思っていましたが、困っていたら助けてくれたりと本当に親切でした。また、予想に反してたくさんの中国人の友達ができて、留学中はいつも楽しいこと辛いことを中国人の仲間と分かち合い、かけがえのない関係になりました。

とくに翻訳学院日本語学科の学生と交流が深くなり、翻訳学院のサッカー部の試合に参加するなど、いい友人になれました。私たちは彼らに日本語や日本文化などを教え、彼らからも中国語や中国文化などを教わりました。また、バスケットボールを通じて毎日見知らぬ学生と交流することが留学中の大きな楽しみの1つとなりました。

中国人学生以外にも韓国から来た留学生とも交流があり、中国、日本、韓国の3国は、国籍や民族は違ってもアジア人として、共に手をつなぐ必要性を感じました。

韓国・大田大学校

文化交流で広がる視野

冨塚潮里（1年）

前列左から3番目が冨塚さん

『留学』と聞けば、大抵の人は夢のような話で自分とは縁のないことだと思うでしょう。私もそんな1人でした。そして、家族や友達と離れて暮らす不安と韓国での留学生活への期待を胸に、8月31日に日本を出発しました。

韓国に着いてからは、文化の差に戸惑いながらも、韓国人はもちろん多くの国々の留学生と友情を育みました。この留学を通して、韓国の語学や文化、習慣を学習するうちに、日本の良いところ、悪いところについて考えるようになり、自国である日本のことを知る大切さに気付きました。多くのみなさんとの交流で視野が広がり、考えを深めることができたんだと思います。同時に、両親のありがたみも改めて実感しました。

私たちは6ヵ月という短期間ではありましたが、内容の濃い留学生活を終え、無事帰って来ることができました。

カナダ・レスブリッジ大学

ネイティブの英語を聴いてどんどん勉強を

伏見朱加（1年）

後列右端が伏見さん

レスブリッジ大学のESL（英語学習）プログラムの講義は楽しく、カナダについて多くのことを学ぶことができました。カナダでの1ヵ月間、毎日のようにいろいろな所を見学し、レス大学主催の小旅行などを通じ日加の学生と交流したりしました。カナダのとてもきれいな景色が印象に残っています。

私がお世話になったお宅は、お母さんと娘さんの2人暮らしの家庭でした。家ではお母さんと、また、お母さんを訪ねる多くのお友だちと過ごす機会に恵まれました。お母さんは毎日忙しいにもかかわらず、夜には一緒に遊んでくれるような優しい人でした。

本学からカナダに一緒に行ったみんなやホストファミリーと仲良くなってからの留学期間はすぐに過ぎてしまい、帰るときにはもっとカナダを知りたい、もっとカナダで過ごしたいと思いました。みなさんも留学の機会があれば、ネイティブの英語をたくさん聴いて外国文化を体験してください。

動き出したサークル活動

6団体が活動中！

①代表者氏名　②人数　③活動内容
④活動時間、場所など　⑤コメント

サークル活動は、大学生活の華。
開学初年度、早くも6つの学生サークルが活動を開始。
この他にも、準備段階に入っている団体もいくつかあります。
今回はすでに活動している6つのサークル・団体に、自己紹介をお願いしました。

体育祭実行委員会
①横山巧
②2名と協力学生で活動
③体育祭の企画・運営、行事の創出
④不定期
⑤学生の立場から主体的に活動しています。楽しい行事を一緒に作ろう。

北海商科祭実行委員会
①07年度の代表者は未定
②13人
③学校祭の企画・運営
④不定期・通年、日程を相談の上で空き教室を利用
⑤地域から広く参加して楽しめる学校祭を目指しています。

中国語研究会『歓々喜々（ふぁんふぁんしーしー）』
①佐藤広大
②10名（06年度は留学生6名参加）
③中国語の勉強会、中国人留学生との交流など
④週1回
⑤みんなで和やかに交流し、気軽に楽しい時間を過ごすことのできるサークルです。

軟式野球部
①金元宏訓
②22名
③06年度は練習試合4戦を行う（3勝1敗）
④夏：豊平川河川敷グラウンドにて週2回練習
冬：週1回集まりスポーツを楽しむ
⑤チームの半分は未経験者、
チームワークの向上を目指して活動しています。
野球好きとマネージャー募集中。

女子ラクロス部
①花井幸子
②1名
③現在は北海学園大学女子ラクロス部で練習
④夏：火曜金曜に7：00～9：00の朝練（北海学園）
⑤クラブチームでも活動中、ゆくゆくは商科生によるチームを。
まだめずらしいスポーツなので、やる気のある人、新しいことに挑戦したい人待ってます。

サッカー部
①中川昌洋
②選手16名、マネージャー3名
③週2回の練習
④厚別競技場サブグラウンド
（07年度は清田グラウンドを予定）
⑤07年度から全日本大学サッカー連盟に登録、
1部リーグ昇格目指して活動中。
新入部員待ってます。

日本を
自分の目で
確かめた
1年間

訪日留学生インタビュー

2006年度、海外交換留学プログラムの第1期生として、
中国の煙台大学、山東大学威海分校、
そして韓国の大田大学校から
計11名が本学で受講しました。
1年間の留学生活について、
煙台大学の張芹さん、山東大学威海分校の李彩虹さんの
2人に話を聞きました。

（写真左）李彩虹さん、（同右）張芹さん

――留学までの経緯を教えて下さい。

●李：私たちは中国の大学でも日本語を専攻していました。日本語能力を高めたかったのと、交流を通して文化、習慣が知りたくて留学を希望しました。

●張：今は4年生なので、帰国して7月に卒業を迎えます。大学生活最後の1年をクラスメートと離れて過ごすのは寂しかったですが、得たものはとても大きかったです。

――本学ではどのような科目を受講しましたか。

●張：必修科目で、日本語、日本の文化・文学・地理・歴史を主に学習し、選択科目では通常の履修科目から興味があるものを受けることができました。

●李：この大学では1つのものごとが、政治や経済、文化など複数の視点から多面的にふれられ、講義にとても広がりがありますね。

――日常生活や休日はどのように過ごしていましたか。

張：北海学園大学の裏にある留学生の寮で生活していました。

●李：休日は街を歩くか、大体部屋で過ごしていました。テレビはヒアリングの勉強にいいんですよ。長期の休みには旅行に行ったりしました。

●張：加藤先生は学校の外にたくさん連れ出してくれて、楽しかったです。

――こちらでの交流はどうでしたか。

●張：先生方は優しくて、悩みを聞いてもらったりして家族みたいでした。事務の方は自宅で何かが壊れた時なんか、わざわざ直しに来てくれました。

●李：留学生は22、23歳が多くこちらの学生とは年齢の差があり、最初は語学に自信もなく話しづらかったんですが、後半には大分慣れました。

●張：留学生はみんな10月下旬以降に3泊4日でホームステイも体験しました。

●李：家族のような関係で、ホームステイを終えてからもよく遊びに行きます。

――1年間の感想をお願いします。

●李：商科大学に留学してきて本当によかったと思っています。中国と日本はもめていることが多いですよね。帰国したら、日本のいいところを中国人に伝えたいです。

●張：みんなのおかげで成長できました。自分の目で見て日本のことが以前よりよくわかりました。日本のみなさんにも自分の目で中国を見てみて欲しい。きっとお互いの認識が変わりますよ。

佃咲江さん、自転車競技でドーハのアジア大会に出場

本学の佃咲江さん（北見キャンパス・4年）が、2006年12月1～15日にドーハ（カタール）で行われた第15回アジア競技大会に、自転車女子スプリントの日本代表として出場しました。準々決勝から5ー8位決定戦へと進み、順位は7位と健闘しました。

アジア大会で力走を見せた佃さん（写真左）

佃さんは高校時代、スケート競技に力を注いでいましたが、恩師のすすめで自転車競技への転向を決め、北海学園北見大学に進学。1年目から国内大会で優勝を重ね、2005年5月の全日本アマチュア選手権での女子スプリント優勝、同年9月に行われた全日本大学対抗選手権では、短距離種目と中距離種目に出場し3種目で優勝を飾るなど、「世界に通用する選手」との評価を受けています。

現在、佃さんは自身の夢である北京オリンピック出場を目指し、オリンピック強化指定選手の1人として練習に励んでいます。

PHOTO 2007

春節パーティー

2月17日、中国の正月にあたる春節を祝うパーティーが学内で行われました。留学から帰国した学生と訪日留学生などが参加して、料理を囲んでにぎやかなひとときを過ごしました。

研究室訪問　加藤由紀子助教授

『社会に学んで社会に返す』地域交流のフィールドワーク

本学助教授の加藤由紀子先生は観光学を専門とし、
なかでも地域交流を基盤にしたグリーンツーリズムを研究しています。
2006年度は、訪日留学生の地域交流を目的とするフィールドワークを年間を通じて行いました。

フィールドワークの舞台となったのは札幌市南区八剣山地区。八剣山周辺地区のまちおこし組織『八剣山発見隊』の活動に、ボランティアとして参加しました。不法投棄されたゴミの清掃活動や、地域イベントでの運営支援、模擬店の経営や来場者へのアンケート調査、農業体験への参加など、継続的なボランティア活動と地域との交流を行いました。

昨年12月には、フィールドワークで学んだ成果を、札幌で催された学生プレゼンテーションコンテスト（主催：日本ビジネス実務学会）で発表。煙台大学からの留学生、張芹さんが日本と中国の運動会の違いを取り上げ、最優秀賞を受賞しました。

学習では、知識と経験の蓄積だけではなく成果を外に表すこと、とくに交流では『貢献』が重要だと加藤先生は強調します。留学生は3月の帰国までに、八剣山でのフィールドワークの他に、交換留学プログラムで本学学生が使用するための母国紹介パンフレット制作、バス会社の多言語対応車両（英・中・韓の3ヵ国語）の試乗モニターなどの貢献活動を行いました。

加藤先生は「1年間のフィールドワークを通じて学生にアウトプットの場を提供することはできました。2006年度は2名の参加がありましたが、日本人学生にもどんどん参加して欲しいと思います。共に現場で活動し、地域と同じ視点でものを考えられるような、地域を愛する大学、それが地域と大学の本来の関わり方だと思います。『社会に学んで社会に返す』という恩師の言葉が、今でも私の研究の基本になっています」と話しています。

【訃報】

元本学商学部長の米内山昭和先生（79歳）が、去る2月7日、逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《ご経歴》昭和23年宇都宮農林専門学校獣医畜産科卒業、昭和56年農学博士（北海道大学）、道立滝川畜産試験場を経て、昭和58年本学教授、昭和59年北海学園北見短期大学開設に伴い併任、経営学科長、図書館長、商学部長などを歴任、平成10年3月退職。退職後も、本学においては開発政策研究所嘱託研究員、地元にあっては米内山農村研究所所長として活躍されました。

【広報委員会からのお知らせ】

- 学報の学生編集部員を募集しています。
- 現在、学報を「北海商科大学学報」としていますが、親しみやすい名称を募集しています。
- 「北海商科大学」の略称を募集しています。
  例：北海学園大学→学園

連絡先：広報委員 岩崎・大東まで

2007年度前期セメスター行事予定

3月30日（金）	2年次ガイダンス
4月　3日（火）	3・4年次ガイダンス
3日（火）～6日（金）	2～4年次前期履修登録期間
5日（木）	入学式
6日（金）・7日（土）	新入生ガイダンス
9日（月）	講義開始
10日（火）～13日（金）	1年次前期履修登録期間
5月12日（土）	海外語学留学生選抜試験（予定）
16日（水）	学園創立記念日
7月17日（火）	月曜日分振替講義日
28日（土）	前期講義終了
30日（月）	夏期休業開始
8月　3日（金）	第1回オープンキャンパス
29日（水）	海外語学留学生出発（中国）予定
30日（木）	海外語学留学生出発（韓国）予定
9月20日（木）	夏期休業終了
21日（金）	1～4年次ガイダンス
21日（金）～25日（火）	3・4年次後期履修登録期間
22日（土）・25日（火）	2年次後期履修登録期間
26日（水）・27日（木）	1年次後期履修登録期間
28日（金）	大学祭準備日
29日（土）	大学祭／第2回オープンキャンパス

北海商科大学学報　第2号
発行日：2007年4月1日　発行：北海商科大学　編集：北海商科大学広報委員会
〒062-8607　札幌市豊平区豊平6条6丁目10番　TEL011-841-1161　FAX011-824-0801　http://www.hokkai.ac.jp/　制作：エディアワークス